

平成 30 年度 各資産における調査及び整備等に関する状況

【構成資産（及び関連資産）名：中尊寺 】

【調 査】	
調査主体	平泉町教育委員会
調査期間	平成 30 年 8 月 21 日～10 月 25 日
調査面積	94 m ²
調査予算	1,876 千円（国庫補助金実績報告で精査）
調査成果	特別史跡中尊寺境内の内容確認調査。昭和 38 年の平泉遺跡調査会による小経蔵跡南方遺跡の調査で検出した礎石建物跡の北側に当たる地点を調査し、大池跡西側の高位面から大池伽藍跡の建物跡の一部とみられる遺構を確認した。 <u>建物の柱を支える礎石や礎石を固定する根石が見つかり群を再検出するとともに、礎石建物に伴うとみられる整地築土層を確認検出しました。また、建物跡と池跡の間にはこの層は緩斜面の地山や旧表土を掘削した埋土が混じる整地層が広がっていたがですが、畑の東側斜面から休水田にかけては後世に大きく削平を受けており、本来存在したと考えられる礎石などの遺構は失われていた。</u> <u>また、築土層と地山の間にはわずかにかわらけ片を含む層があり、整地築土層の下から小さな柱穴が見つかりを検出しています。</u> 遺物は 12 世紀のかかわらけ、瓦、陶器などが少量出土した。

参考図面
写真等



【構成資産（及び関連資産）名：中尊寺】

【調 査】	
調査主体	平泉町教育委員会
調査期間	平成 30 年 6 月 12 日～7 月 6 日
調査面積	20 m ²
調査予算	996 千円
調査成果	調査地点は金色堂北側約 100m、釈迦堂の北隣に位置し、12 世紀以前の溝跡(SD1)、12 世紀の溝跡及び整地層(SD2)と柱穴 3 個、近世段階の整地層を検出した。 SD1 は底面近くで二次堆積の十和田 a (915 年降下)の可能性が高い灰白色火山灰が堆積していた。今回の調査区周辺で調査が行われた中尊寺跡第 17 次調査の SD10 や平泉遺跡調査会第Ⅱ期 2・4 次（大長寿院境内地区・伝三重の池、伝金堂中間地区）の調査で見つかった溝状遺構においても埋土に二次堆積の火山灰が確認されている。今回見つかった溝跡と繋がると考えられるこれらの溝跡は 12 世紀以前の中尊寺を考える上で貴重な遺構である。 なお、今回の調査地点より北側において平泉遺跡調査会の第Ⅱ期 2 次調査において新旧 2 時期の溝が確認されており、SD2 の続きとなる可能性がある。 近世の整地層は現在の釈迦堂（享保四年建立）が建てられた際に行われた整地と

	考えられる。
参考図面 写真等	

【構成資産（及び関連資産）名：中尊寺 】

【調 査】	
調査主体	平泉町教育委員会
調査期間	平成 30 年 6 月 28 日～8 月 22 日
調査面積	75 m ²
調査予算	1,000 千円（国庫補助金実績報告で精査）

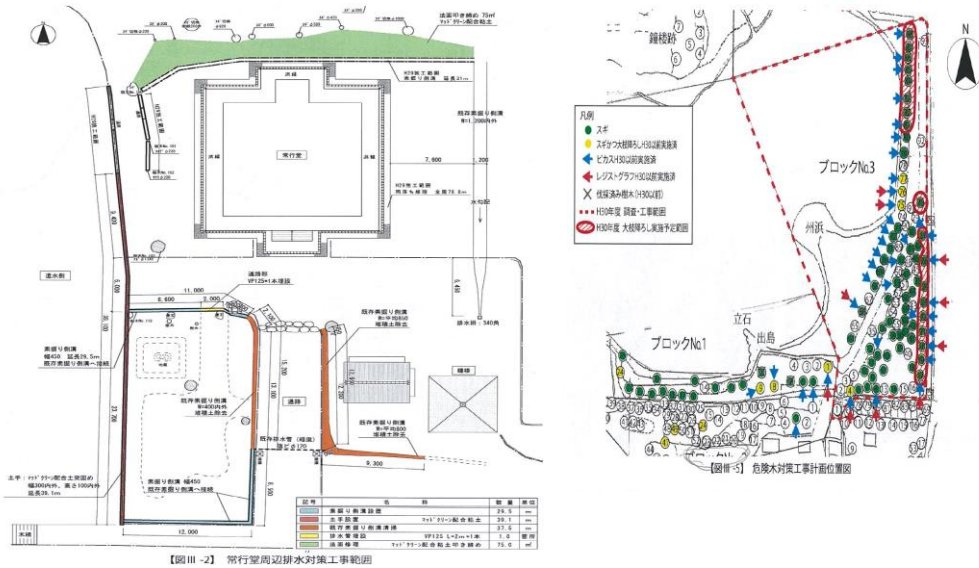
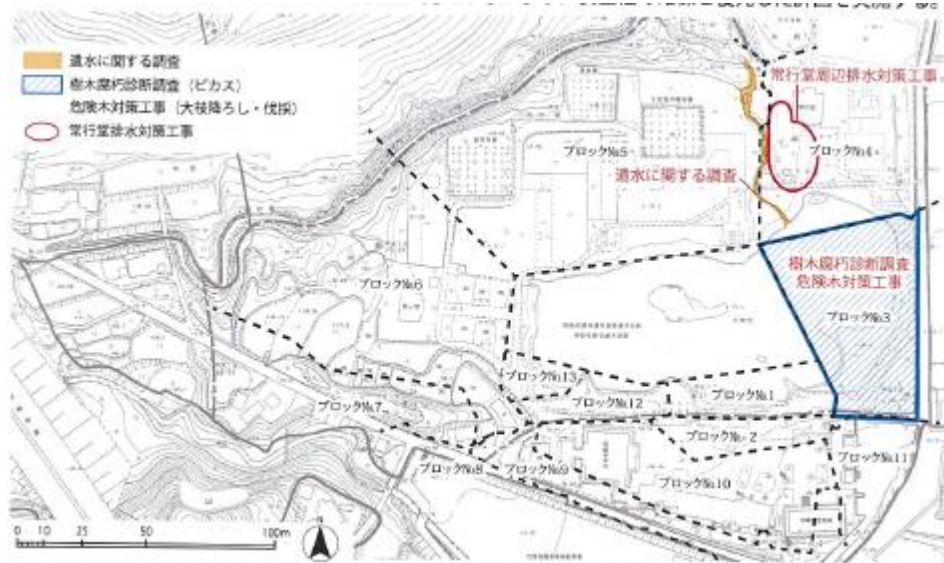
調査成果	特別史跡中尊寺境内の本堂北西側、中尊寺事務局建物の北に位置していた「御居間(おいま)」の跡地に係る調査である。 調査区全体が昭和 30 年代の造成土で厚く被われており、この下に近世・明治～昭和とみられる堆積土や溝跡、近世以降の堆積土とともに 12 世紀もしくはそれ以降とみられる整地を検出し、柱穴 90 個を検出した。西側のトレンチ (T 2) では、かわらけ片を多く含む遺物包含層を検出した。 柱穴は掘立柱建物跡の一部とみられるもので、複数の重複がみられるものがある。遺構の年代は出土遺物や埋土の様相からみて 12 世紀から近世 2 以降にかけてのものと推定される。なお、柱穴 6 の掘方からロクロかわらけ、柱穴 90 の柱痕跡から中国産白磁片が出土している。 溝跡は 2 条確認したが出土遺物から近代以降の新しい遺構とみられる。
参考図面 写真等	

【構成資産（及び関連資産）名：毛越寺】

【整 備】	
整備主体	宗教法人 毛越寺
整備期間	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
整備面積	181 m ² （排水対策対象面積）
整備予算	11,700 千円（国庫補助：5,850 千円）
整備内容	・ 遣水の周辺環境調査 ・ 常行堂周辺排水対策工事

・樹木腐朽診断及び危険木対策工事（大泉が池東側）

参考図面
写真等



【構成資産（及び関連資産）名：観自在王院跡】

【調査】	
調査主体	平泉町教育委員会
調査期間	平成30年10月29日～12月3日
調査面積	185 m ²

調査予算	9,400 千円
調査成果	今回の調査は未整備であった観自在王院跡南西側を対象に調査を行った。調査の結果、溝2条、柱穴6個、塀の痕跡や整地層が見つかりました。 確認された塀跡は、高さが40～50cm、幅4.5mを測り、整備された築地塀に向かって、東西方向に約19m確認した。 塀跡の7m南から、東西大路の北側道路側溝を確認したが、塀と若干方向がずれており、並行していない状況であった。南側の倉町遺跡の調査では、道路の拡幅とともに複数の遺構変遷が辿れることから、次年度調査において確認・検討する予定である。
参考図面 写真等	

【構成資産（及び関連資産）名：無量光院跡】

【調 査】	
調査主体	平泉町教育委員会
調査期間	平成30年7月9日～10月26日
調査面積	200 m ²

調査予算	10,354 千円
調査成果	無量光院跡以前の石敷や築地塀とともに 12 世紀の溝跡や柱穴等を確認 東西方向 12.2m、南北方向 6.15m の範囲で確認した。2 条の溝で 3 つに区画され、一番東側では径 10～20 cm、中央では 30～50 cm、西側では 20～40 cm の石が敷かれていた。また、石敷の隣から築地塀を確認した。長さ 8.9m、幅 1.58m、高さ 34 cm 程あり、黄色土と褐色土が交互に積まれていた。無量光院造営時に崩され、その上を整地しており、無量光院直前まで使用されていたと考えられる。3 年前の調査(33 次)においても続きが見つかっており、両者を合わせた延長は 15m 程を測る。今回見つかった無量光院跡以前の石敷と築地塀のセットは、無量光院跡以前にあった寺院を囲む塀とその入口の通路と考えられる。
参考図面 写真等	

【構成資産（及び関連資産）名：無量光院跡 】

【整 備】	
整備主体	平泉町
整備期間	平成 30 年 10 月 25 日～平成 31 年 3 月 26 日

整備面積	1,783 m ²
整備予算	46,456 千円
整備内容	池底整備 護岸整備 導水路整備 東側土塁盛土
参考図面 写真等	■平成30年度整備計画範囲図 (S=1:1000)

【構成資産（及び関連資産）名： 柳之御所遺跡（堀外部地区） 】

【調 査】	
調査主体	岩手県教育委員会
調査期間	平成 30 年 6 月 5 日～平成 30 年 11 月 2 日

調査面積	柳之御所遺跡 800 m ²
調査予算	43,862 千円
調査成果	1) 堀外部調査 (25 次調査) で検出されていた道路遺構がより西側に延びる状況を確認した。 2) 道路跡 1 (以前より道路遺構と認識されていた遺構)、道路跡 2 (区画溝と想定されていた遺構) の 2 条の道路遺構を確認することができた。道路跡 1 については断面の状況から少なくとも 1 度の作り替えが行われている。また道路跡 1 の最上層は人為的に埋め戻されていることから、道路跡 1 の方が古い段階の道路跡と推定される。 3) それぞれの道路跡の両側側溝に伴って堀跡を確認した。平面では材の痕跡は確認できないが、断面では板堀の可能性が想定される。
参考図面 写真等	発掘調査位置 The map displays the archaeological site of Ryougi-no-Miya. It includes a legend with the following items: - 町教委既調査分 (Municipal Education Commission Previous Investigation Area) - Green solid line - 今次調査検出分 (This Survey Detection Area) - Blue solid line - 今次調査検出分 (確認中) (This Survey Detection Area (Under Confirmation)) - Dotted blue line - 今次調査範囲 (This Survey Range) - Red solid line Other labels on the map include: - 来年度調査位置 (Next Year's Investigation Position) - Indicated by a black arrow pointing to a green area. - 今年度調査位置 (This Year's Investigation Position) - Indicated by a black arrow pointing to a blue area. - 中尊寺 金色堂 (Nakazonji Temple Kinokondou) - Indicated by a yellow arrow. - 道路跡 2 (Road Remains 2) - Indicated by a green arrow. - 柳之御所遺跡 堀内部 (Ryougi-no-Miya Site堀 Internal) - Indicated by a yellow arrow. - 道路跡 1 (Road Remains 1) - Indicated by a blue arrow.

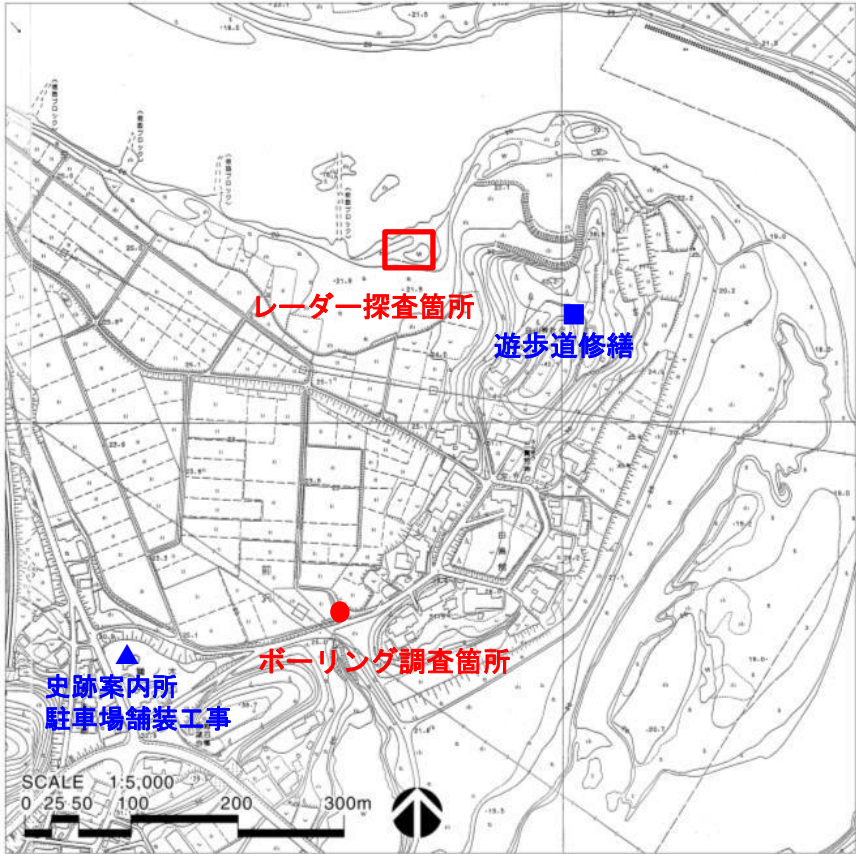
【構成資産 (及び関連資産) 名 : 柳之御所遺跡】

【整 備】	
整備主体	岩手県教育委員会
整備期間	平成 30 年 10 月 26 日～平成 31 年 1 月 25 日
整備面積	3 m ²

調査面積	6 m ²
調査予算	341 千円（国庫補助金実績報告で精査）
調査成果	今年度の調査は池の南東側の現在の排水路を対象に調査を行った。 調査の結果、現在の池底と同程度の標高で火山灰が層状に堆積していた。ただしその上面までは排水路の造り直しが原因と考えられる後世の攪乱が深く入っており、12 世紀段階の状況は判然としない。なお、火山灰が層状に認められ排水路から離れるほど残りがよいこと及び調査区内に 12 世紀の石積護岸がないことから、当時の蝦蟇が池は現在の池岸より東側に広がる可能性が残されている。
参考図面 写真等	

【構成資産（及び関連資産）名：白鳥館遺跡】

【調 査】	
調査主体	奥州市教育委員会

調査期間	平成 30 年 5 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
調査面積	1 5 0 m ²
調査予算	3, 4 0 4 千円
調査成果	今年度は、ボーリング調査とレーダー探査を実施した。ボーリング調査は、船着き場想定地のうち、南の船着き場想定箇所を調査した。その結果、8.3mまで洪水堆積層とみられる土壌、8.3m以下は岩盤であることが明らかとなった。土壌の年代は、現在放射性炭素年代測定を行っているところである。(レーダー探査は 3 月実施予定) また今年度は、史跡内遊歩道修繕及び史跡案内所駐車場の舗装工事を行っている。(工事予算 5, 0 6 1 千円)
参考図面 写真等	 The map shows a topographic representation of the site with contour lines and various landmarks. Key locations are marked with colored symbols and text: レーダー探査箇所 (Radar Survey Point): Indicated by a red square in the upper central part of the map. 遊歩道修繕 (Walking Path Repair): Indicated by a blue square in the upper right part of the map. ボーリング調査箇所 (Boring Survey Point): Indicated by a red dot in the lower central part of the map. 史跡案内所 駐車場舗装工事 (Historic Site Guide Post Parking Lot Paving Work): Indicated by a blue triangle in the lower left part of the map. At the bottom left, there is a scale bar labeled "SCALE 1:5,000" with markings for 0, 25, 50, 100, 200, and 300 meters. A north arrow is located at the bottom center.

【構成資産（及び関連資産）名：長者ヶ原廃寺跡】

【調 査】	
調査主体	奥州市教育委員会

調査期間	平成 30 年 7 月 5 日～平成 30 年 10 月 19 日
調査面積	148 m ²
調査予算	4, 5 5 0 千円
調査成果	今年度は遺跡南側の築地塀外側を対象に調査を実施した。 これまでの調査によって南辺の築地に南門跡が存在することが明らかになっており、築地塀跡の外側に寺院と関わる施設が存在した可能性が考えられることから、これらの有無を確認することを目的とした。 調査の結果、今年度の調査では明確に遺構であると判断できるものは確認できなかった。今後も築地塀外側の調査を実施し、寺院に関連する施設の有無を確認する必要がある。
参考図面 写真等	

【構成資産（及び関連資産）名：骨寺村荘園遺跡】

【調 査】	
調査主体	一関市教育委員会 文化財課

調査期間	平成 30 年 6 月～11 月
調査面積	563 m ²
調査予算	12,201（千円）
調査成果	平泉野遺跡のうち、中川 9、若井原 194-1、194-2 地点でそれぞれトレンチを設定した。中川 9 地点で縄文時代のフラスコ状土坑や土器等の遺物を確認したが、平成 29 年度調査で確認した溝 2 条の延長は確認できず、若井原 194-1 地点の竪穴状遺構についても性格は不明である。 駒形 45-4 地点で、耕作土から 9～10 世紀の土師器片を確認した。中尊寺経蔵別当領となる以前から人々の生活があったことを示す成果であるが、平泉や中尊寺との関係を直接示すものは確認できなかった。
参考図面 写真等	 写真1 フラスコ状土坑（中川 9 地点）  写真2 土師器片（駒形 45-4 地点）

参考

平成 30 年度 各資産における調査及び整備等に関する状況

【構成資産（及び関連資産）名： 中尊寺（金色堂） 】

【調 査（建造物）】	
調査主体	宗教法人 中尊寺
調査期間	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
調査内容	中尊寺金色堂の保存のあり方を検討するための環境調査。
調査予算	4,000 千円（国庫補助：2,000 千円）
調査成果	○新覆堂内の温湿度管理状況は、保存環境として問題はないこと。 ○漆塗膜の調査から、当初の塗膜が良好に遺存していること、明治と昭和の 2 回の修理痕跡があること、金の純度は当初のものが高いことが確認された。 ○壁面等の亀裂は、東日本大震災によるものではなく、経年によるものと確認された。
参考となる事項等	○新覆堂内の保存環境については、現状の管理方法を維持することとする。 ○今後補修等を行う場合は、今回の調査結果に基づいて仕様を検討するもの。